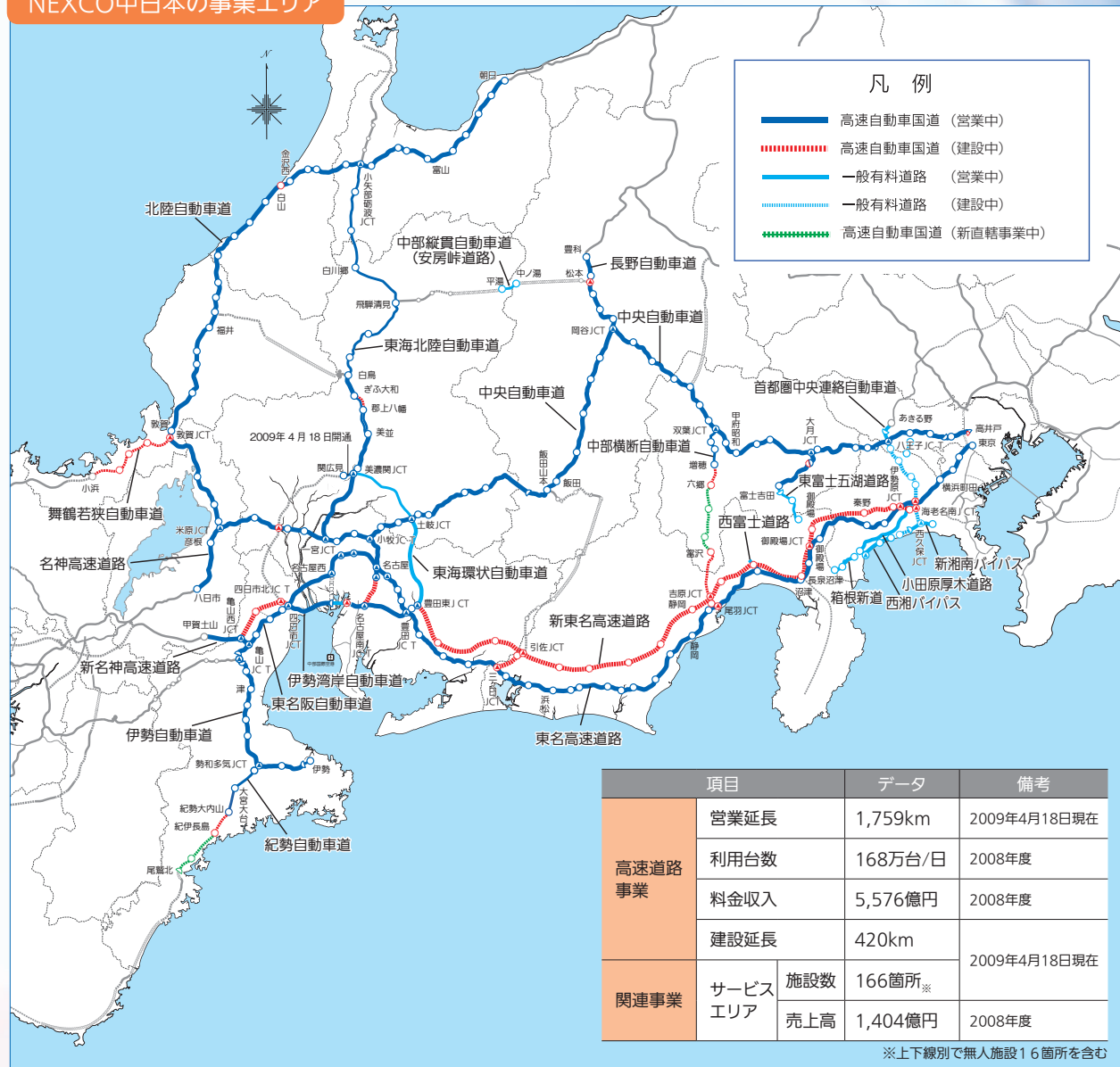


NEXCO中日本の事業エリア



CSR報告書 2009

Corporate Social Responsibility Report

ダイジェスト版

～安全・安心・快適な「百年道路」を目指して～



本報告書は、FSC認証紙を使用しています。
印刷インクには、植物性の「大豆油インキ」を使用。
また、印刷には有害廃液を出さない、水なし印刷方式を採用しています。

「NEXCO中日本」はチーム・マイナス6%に参加しています。



NEXCO中日本お客さまセンターのご案内

お客様からのご意見・ご要望をお願いいたします。

NEXCO中日本お客さまセンター 0120-922-229

道路緊急ダイヤルのご案内

高速道路で異常を発見された際の専用ダイヤルとなります。
ご協力をよろしくお願いいたします。

道路緊急ダイヤル #9910

ハイウェイテレホンのご案内

お客様のいる場所から最も近い地域のハイウェイテレホンに
接続する専用ダイヤルです。最新の高速道路の交通情報を
24時間自動音声で提供しています。

ハイウェイテレホン #8162



中日本高速道路株式会社
名古屋市中区錦2-18-19
三井住友銀行名古屋ビル 〒460-0003
http://www.c-nexco.co.jp
2009年6月発行



「CSR 経営」を推進し、 「良い会社で強い会社」を 目指します。

中日本高速道路株式会社
代表取締役会長 CEO

矢野 弘典

私たち NEXCO 中日本は常に変革と向上を求め、安全・安心・快適で、時代をリードする高速道路空間を創出し、地域社会の発展と暮らしの向上、更に日本経済の活性化に貢献していくことを最大の使命として事業を推進しています。

こうした事業を推進していく上で、私たちの目指す企業像は「良い会社で、強い会社」です。

「良い会社」とは、約束を守る正直な会社、世の中の役に立つ会社、世間に信頼され、喜ばれる会社であり、従業員も家族も胸を張って誇れる会社です。「強い会社」とは、適正な利潤をあげ、黒字を続ける会社です。

わが国の経済情勢は、世界的な金融危機の深刻化や世界同時不況のもと、景気悪化が急速に進み、輸出関連産業の停滞やそれらの業界を中心とする雇用情勢の悪化が現出する一方、少子高齢化・人口減少などの人口構成の変化、グローバル化、価値観の多様化など、社会情勢も激変しています。

このように、経済・社会情勢が激変している中で、高速道路という重要な社会インフラを担う当社グループには、国の経済対策や顧客動向の変化に対して的確に対応するとともに、地域産業の発展、広域観光の促進や生活利便性の向上など、地域経済の活性化への貢献や、さらには環境負荷低減による持続可能社会への貢献などが求められています。

NEXCO 中日本は、2005 年 10 月の設立から 4 年目に

入りましたが、2008 年度より 5 ヶ年を通じた経営基本方針を「グループ経営強化と飛躍への挑戦」として、民営化発足段階から企業としての飛躍段階への移行期と位置付け、全社的にコンプライアンス・お客様満足（CS）意識を高め、地域社会への貢献、環境負荷の低減に積極的に取り組むなど、企業の社会的責任（CSR）を推進してまいりました。2009 年度も引き続きこの経営基本方針を堅持し、経営施策の二本柱を「CSR 経営の推進」と、「グループ一体経営の推進」と位置付け、「スピードと感度」を高めながら、長年培ってきた「現場力」を発揮して、柔軟かつ的確に経営を進めてまいります。

私たちの経営計画は、中長期的な 5 ヶ年計画として「チャレンジ V」を策定しており、経営環境の変化を踏まえながら毎年度見直しを行っています。CSR 報告書はこの経営計画の進捗報告でもあります。

私たちが「良い会社」を目指し、日々取り組んでいる状況をご覧いただき、忌憚ないご意見を頂戴できれば幸いです。

NEXCO 中日本グループの CSR 経営

経営理念

私たちの役割

私たちは、常に変革と向上を求め、安全・安心・快適で、時代をリードする高速道路空間を創出し、地域社会の発展と暮らしの向上、更に広く日本経済全体の活性化に貢献します。

私たちのめざす企業像

「良い会社で強い会社」をめざします。
私たちは、
「良い会社」とは、約束を守る正直な会社、世の中の役に立つ会社、世間に信頼され、喜ばれる会社であり、従業員も家族も胸を張って誇れる会社
「強い会社」とは、適正な利潤をあげ黒字を続ける会社
であると考えます。
「良い会社」になることにより、「強い会社」を実現します。

私たちの基本姿勢

1. お客様を第一にする
2. 衆知を集める
3. 現場に立って考え行動する
4. 変革を続ける
5. 約束を守る

経営方針

《2009～2013を通じた経営基本方針》「グループ経営強化と飛躍への挑戦」

- 【2009年度の経営方針】
1. スピードと感度の向上、環境変化への的確な対応
 2. CSR経営、グループ一体経営の推進
 3. 2009年度施策の確実な実行

■CSR重点施策

安全・安心の推進

高速道路を長期にわたり安全・安心・快適にご利用いただくために、安全活動を広範かつ積極的に推進します。

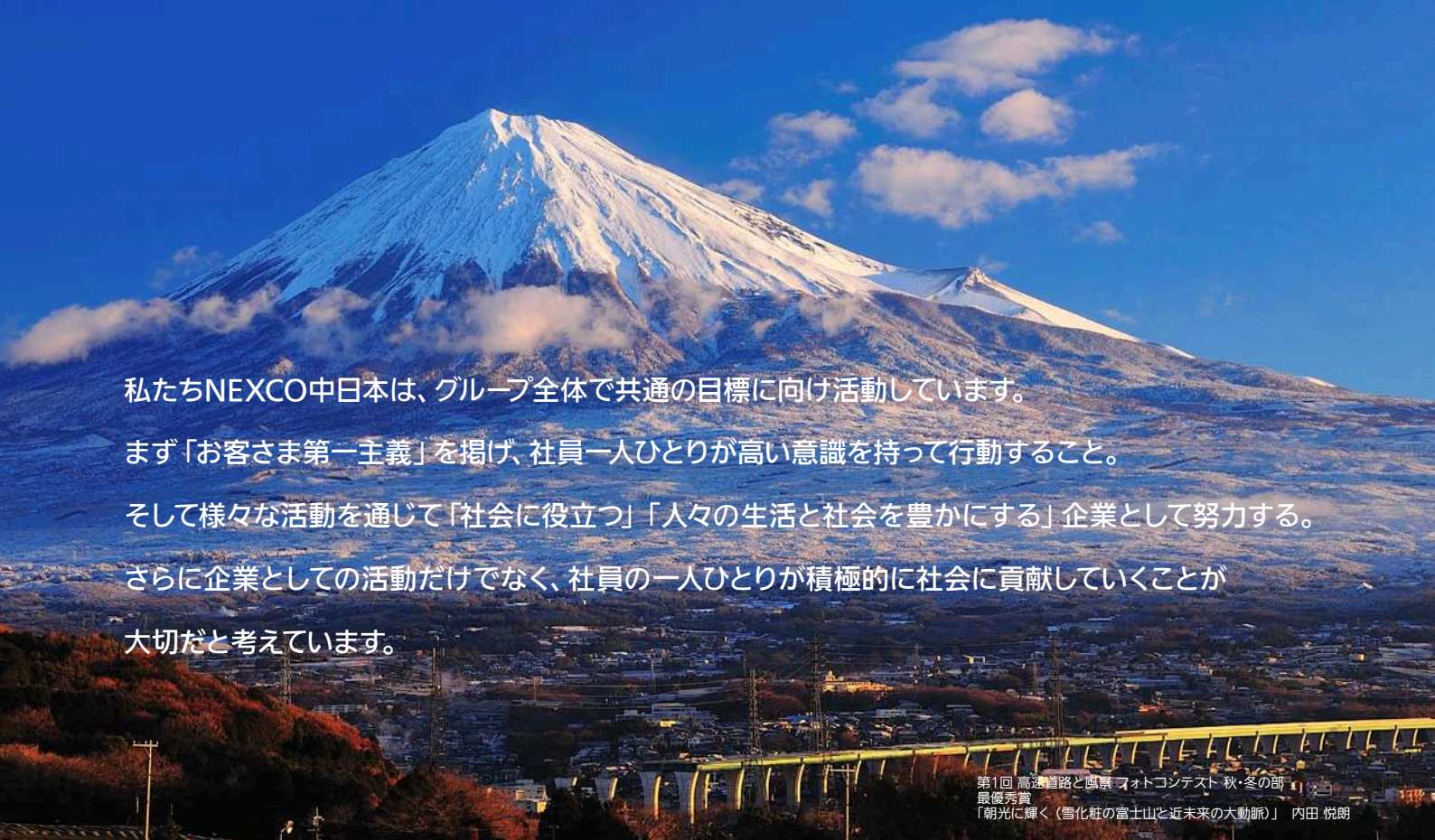
地域社会との連携・支援

産業・観光の発展など地域の活性化に貢献するとともに、災害時の支援など地域との連携を強化します。

環境・持続可能社会への貢献

高速道路ネットワークの整備に係る事業活動や資源の3R（REDUCE・REUSE・RECYCLE）推進などを通じて、CO₂排出量の削減をはじめとした環境負荷の低減や地域環境の向上を図ります。

建設副産物の発生が限りなくゼロになるような設計・施工を行うとともに、環境負荷の少ない建設機械の採用、適切な工法選択などにより環境へ配慮した建設事業を進めます。



私たちNEXCO中日本は、グループ全体で共通の目標に向け活動しています。

まず「お客さま第一主義」を掲げ、社員一人ひとりが高い意識を持って行動すること。

そして様々な活動を通じて「社会に役立つ」「人々の生活と社会を豊かにする」企業として努力する。

さらに企業としての活動だけでなく、社員の一人ひとりが積極的に社会に貢献していくことが大切だと考えています。

NEXCO中日本グループの概要



会社概要

商 号：中日本高速道路株式会社（Central Nippon Expressway Company Limited）

代 表 者：代表取締役 会長CEO 矢野 弘典
代表取締役 社長COO 高橋 文雄

本社所在地：名古屋市中区錦2丁目18番19号

設立年月日：2005年10月1日

従 業 員 数：2,111名〔グループ全体 8,161名〕※2009年3月31日時点

資 本 金：650億円

事 業 内 容：高速道路の建設、保全・サービス事業、サービスエリアその他の関連事業

グループ概要

NEXCO中日本グループは、CSR経営とともに、グループ一体経営を推進しています。

グループ全体(当社及びグループ会社17社)で経営理念・経営方針を共有し、グループ各社が連携して、各施策を一体的に進めることにより、本格的なグループ経営を推進します。

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| ■連結子会社 12 社 | ■持分法適用関連会社 5 社 |
| 《サービスエリア》中日本エクスプレス㈱ | 《トラクタターミナル》北陸高速道路ターミナル㈱ |
| 《料金収受》中日本エクストール横浜㈱ | 《IT》㈱ NEXCO システムズ |
| 中日本エクストール名古屋㈱ | 《技術開発 / 研究》㈱高速道路総合技術研究所 |
| 《交通管理》中日本ハイウェイ・パトロール東京㈱ | 《サービス》㈱ NEXCO 保険サービス |
| 中日本ハイウェイ・パトロール名古屋㈱ | 《料金収受機械保守》ハイウェイ・トール・システム㈱ |
| 《保全点検》中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京㈱ | |
| 中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋㈱ | |
| 《維持修繕》中日本ハイウェイ・メンテナンス東名㈱ | |
| 中日本ハイウェイ・メンテナンス中央㈱ | |
| 中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋㈱ | |
| 中日本ハイウェイ・メンテナンス北陸㈱ | |
| 《サービス》NEXCO 中日本サービス㈱ | |

NEXCO中日本グループの事業別概要

信頼性の高い高速道路ネットワークを構築することにより、安全・安心・快適な高速道路を提供します。

高速道路事業（建設）

高速道路の整備

独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構と締結した「協定」の完成年度、事業費を基本として、地域の期待に応え、事業への理解と協力を得ながら、安全と品質を確保し、環境保全、コスト縮減を図りつつ、早期開通に努めます。



主な建設プロジェクト

- | | | |
|--|---------------------------------------|--|
| ■ 新東名高速道路

ようろいさち 鋸田沢橋（富士市） | ■ 名古屋環状2号線

掘割構造（名古屋市緑区） | ■ 首都圏中央連絡自動車道

海老名JCT（海老名市） |
|--|---------------------------------------|--|

NEXCO中日本グループの事業別概要

信頼性の高い高速道路ネットワークを構築することにより、安全・安心・快適な高速道路を提供します。

■ 高速道路事業（保全・サービス）

高速道路の維持管理

日本の東西基幹交通を担う大動脈である東名・名神をはじめ、沿線地域の皆さまの生活を支える高速道路を管理・運営しており、「お客さま第一主義」を徹底し、お客さまの声を的確に反映させたサービス、業務の改善に取り組み、お客さまに満足して頂けるサービスを24時間365日提供します。

営業延長など(2009年4月現在)	
営業延長(km)	1,759
利用台数(万台/日)	168
料金所数	230
全レーン数(うちETC)	1,318(670)
ETC利用率(%)	82.2



保全・サービス業務の内容

24時間365日、お客さまに安全・安心・快適な高速道路空間を提供することを目的として、料金収受、交通管理、維持修繕、保全点検、改良・防災対策、交通管制などの各種業務に日夜取り組んでいます。

料金収受業務

「きめ細かいお客さまサービスの提供」がモットーです。



改良・防災対策業務

健全で災害などに強い道路ネットワークを構築するために、各種対策を実施しています。



交通管理業務

異常事象の未然防止と情報収集、早期対応を行います。



災害復旧業務

災害発生時の被害拡大を防ぎ、早期に道路交通を確保するために復旧作業を実施しています。



維持修繕業務

常に安全・安心・快適な道路空間を提供します。



交通管制業務

高速道路の流れや設備の運転状態を監視し、緊急事象に迅速に対応します。



保全点検業務

道路の異常を早期に発見し、安全な道路を確保します。



■ 関連事業

「より快適」「より便利」「より楽しい」サービスエリアの実現

「コンビニ」や「カフェショップ」などの店舗を拡大するとともに、「速弁」の新商品導入など、より便利なサービスエリアを実現します。

サービスエリア数 (2009年4月現在)		新規計画中の サービスエリア数
サービスエリア	50[46]	10
パーキングエリア	116[95]	24
合計	166[141]	34

※[]は商業施設を有するエリア数



紀勢自動車道 奥伊勢PA(上り線)

海外事業の展開

アジア地域を中心に収益事業を展開するとともに、海外の道路事業者との交流や国際的活動に対する貢献を実施しています。2008年11月には、当社で初めての海外拠点となるベトナム事務所をベトナム国ハノイに開設しました。



ベトナム事務所開所式



マレーシアPLUS社との覚書調印式

新ビジネスの企画・開発

プレミアムドライバーズカードの会員拡大や、ドライブ旅行の支援サイトの構築など、新しいビジネス展開を図ります。



Webサイト「高速日和」

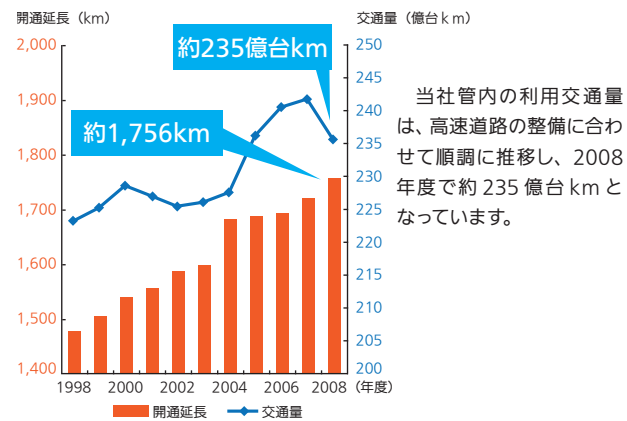


※1「おサイフケータイ」は、株式会社NTTドコモの登録商標です。
※2「Edy」は、ビットワレット株式会社の登録商標です。

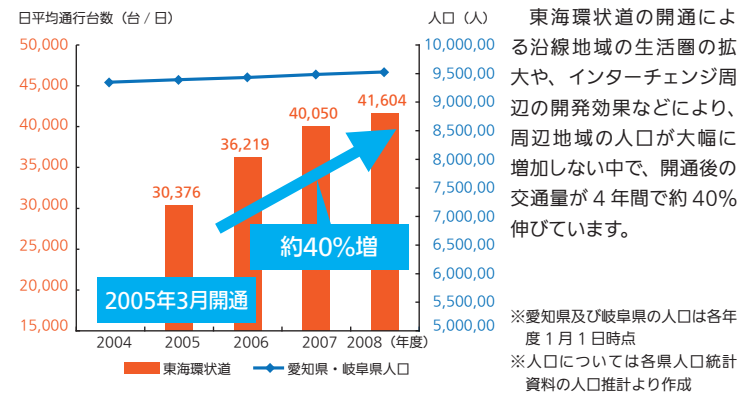
高速道路の役割と整備効果

1. 高速道路の利用動向

NEXCO中日本管内
高速道路の開通延長と交通量の推移



東海環状道の日平均交通量と愛知県・岐阜県人口の推移



2. 高速道路の役割

NEXCO中日本グループの高速道路ネットワークは、地域間相互の交流、沿線地域の産業の活性化、広域的な都市圏の形成、行動圏の拡大による日常活動の活発化、他の交通インフラとの有機的結合による人・モノ・情報の流れの円滑化など、社会経済活動の根幹を支える社会基盤を担っています。

直接効果

- ・時間短縮効果
- ・交通事故減少便益
- ・走行便益

広域効果

- ・地域プロジェクト貢献
- ・地域間の交流促進
- ・国土の均衡ある発展

間接効果

- ・豊かな生活
- ・産業の発展
- ・安全な暮らし
- ・環境改善

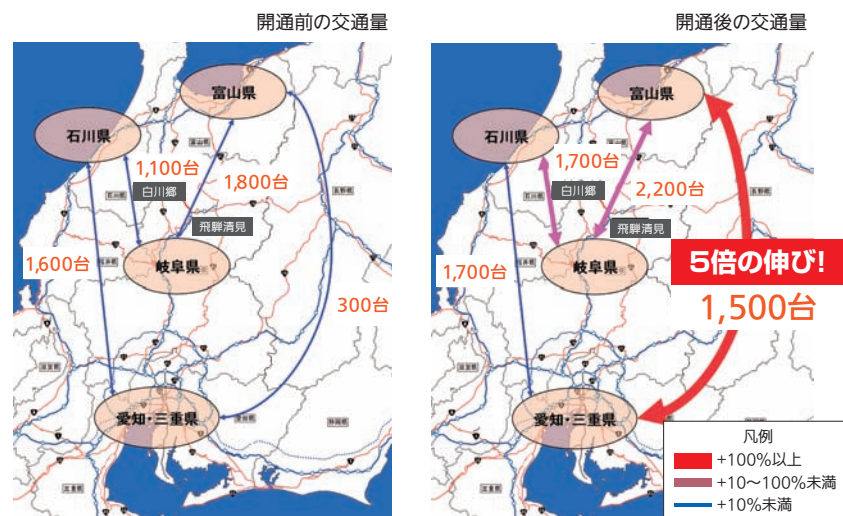
3. 整備効果の事例

NEXCO中日本管内の高速道路が開通したことで、地域間交流の増加や一般道の交通事故の減少や交通渋滞の減少などの効果が現れています。

● 高速道路を利用した交流の増加

東海北陸自動車道全通（2008年7月）後の中部地方圏域IC間の交通量は、前年と比較して全体的に増加しています。

特に愛知・三重県と富山県の区間交通量の増加は顕著であり（300⇒1,500台、約5倍の伸び）、全通の効果がよく現れています



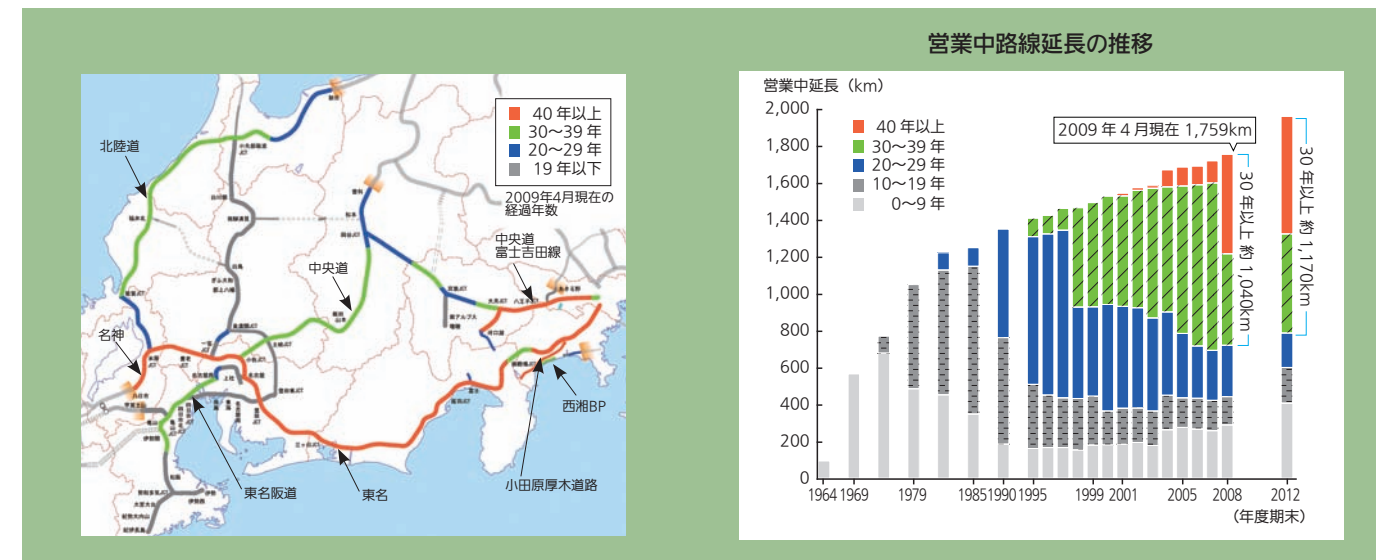
安全・安心・快適な「百年道路」を目指して

お客さまに安全で安心してご利用頂ける「百年道路」を目指して、道路構造物の老朽化、車両の大型化、交通量の増加等の環境変化に対応し、良好な道路資産の維持に向け、効率的かつ効果的な道路機能保全対策を推進します。

1. 高齢化した高速道路ストックの現状

NEXCO中日本の管理する高速道路（1,759km 2009年4月現在）のうち、供用後40年を経過する東名・名神をはじめ、供用後30年を経過する道路が全体の約6割を占めます。

5年後の2012年度には、経過30年以上の道路はさらに約140km増加することになり、高齢化する高速道路ネットワークの長期的な保全事業（適切な点検と集中的な補修・補強）の計画立案が急務となっています。



2. 百年後も安全で安心してご利用いただくために

NEXCO中日本では、お客さまに百年後も安全・安心にご利用いただけるよう、建設段階から維持管理に至る段階でそれぞれ「百年道路」の実現に向けて取り組んでいます。

特に維持管理業務においては、高齢化する高速道路ネットワークに対して次世代へ健全な高速道路資産を継承することを目的に、学識経験者の意見を伺いながら、今後の高速道路ネットワークの長期保全計画を策定します。

長期保全計画に基づき、新規ネットワークの完成に合わせて、名神、東名、東名阪道等の修繕計画及び交通規制計画を検討し、順次、道路構造物の老朽化対策、舗装の厚層打換えなどの大規模リニューアル工事を展開します。



「長期保全計画に関する検討会」開催状況

弾力的な料金割引の実施

NEXCO中日本では民営化以降、時間帯割引、大口・多頻度割引などに加えて、周遊プランなどの当社独自の企画割引を実施してまいりました。さらに2009年3月より新料金割引を開始するなど、お客さま満足に向けた割引制度を実施しております。

1.新料金割引制度の導入

国の「安心実現のための緊急総合対策」、「生活対策」として、国土交通省、独立行政法人高速道路保有・債務返済機構及び他的高速道路会社と共同し、高速道路における大幅な ETC 料金割引を 2009 年 3 月より順次開始しております。

● エリア・時間帯別割引の概要

今回の割引の大きな特長は、休日の地方部の高速道路において、軽自動車、普通車が距離に関係なく 1,000 円以下で走行できるところにあります。なお詳しくは HP をご覧ください。

※従前の割引に加えて、2009年3月28日より以下の割引を実施しています。

①**平日昼間割引** (全車種・100km以内・30%・2回限定)

②**平日夜間割引** (全車種・距離制限無・30%・回数制限無)

③**休日特別割引** (軽普通・距離制限無・都市部30%又は50%、
地方部50%で1,000円上限、回数制限無)

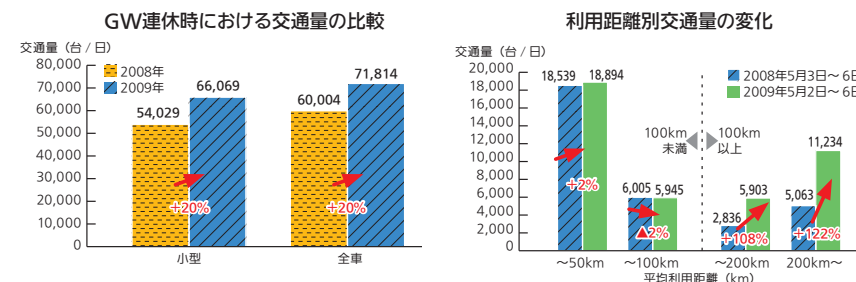
*割引は2009年3月31日時点の内容です。



● 新料金割引(休日特別割引)に伴う効果、課題

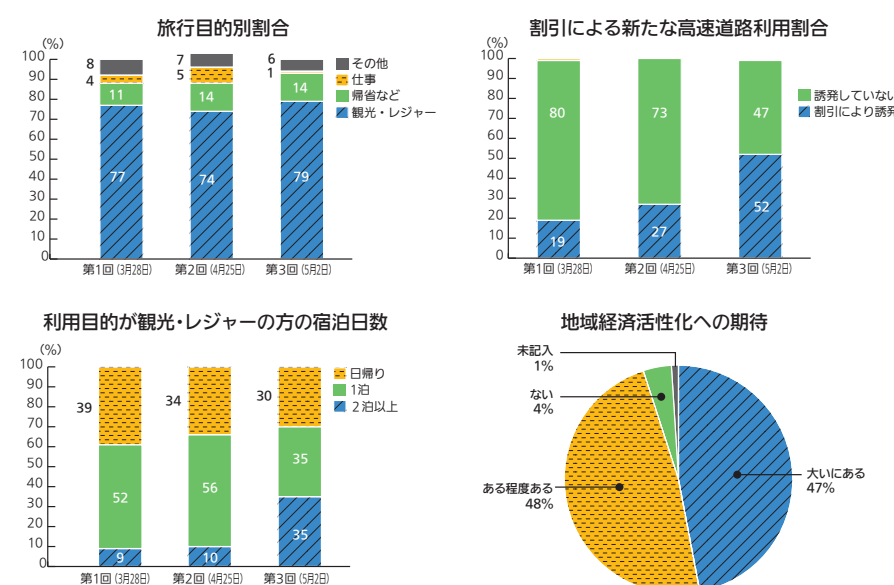
休日特別割引制度の開始に伴い、以下の効果が見られます。

・交通量の変化、長距離走行のお客さまの増加
休日特別割引導入後の繁忙期における交通量は、前年同時期と比較して約20%増加しております。またお客さまの平均利用距離は、前年同時期と比較して17km（約25%）増加しています。



・観光・レジャー等を目的とした高速道路走行
の増加、地域経済活性化への期待

割引開始後にNEXCO中日本管内のサービスエリアで行ったアンケートにより、①観光・帰省等を目的した利用、②割引による高速道路利用、③宿泊を伴う旅行、④割引の地域経済活性化への期待、のそれぞれの割合が増加していることが分かりました。



お客さまにとって快適で心地よい商業空間をプロデュース

わたしたちNEXCO中日本は「より快適」「より便利」「より楽しい」サービスエリアの創造を通じて、お客さまに感動していただけるようなサービスを提供することを目指します。

Enjoy & Shopping

1.より便利なサービスエリアの実現

2008 年度には、お客さまの利便性が高いコンビニエンス・ストアを 16 店舗、カフェショップを 8 店舗、ファーストフード店を 4 店舗、地域に根ざした店舗づくりとして、「馬籠まごめと湯舟ゆふねの里」など地元企業が営業を行う店舗を 3 店舗オープンしました。



馬籠と湯舟の里 中央道 ^{みさか} 神坂PA(上り線)

2.感動を与えるサービスエリアを目指して

より魅力的な商業空間を創造し、「通過型サービスエリア」から「滞在型サービスエリア」へと質的転換を図ります。

新しいスタイルのサービスエリアを目指し、東名高速道路 足柄 SA (上下線)、名神高速道路 多賀 SA (下り線)、東名阪自動車道 御在所 SA (上下線) において、大規模店舗リニューアルによる複合商業施設化を進めています。



名神 多賀SA(下り線)

3.サービスエリアの新たなご利用シーンの提案

サービスエリアの立地条件や利用特性を活かし、付加価値をつけることにより、お客さまにサービスエリアの新たなご利用シーンや楽しみ方を発信します。2008年度においては、東名高速道路 浜名湖 SA と北陸自動車道 杉津 PA (下り線)が『恋人の聖地』に認定され(認定機関:NPO 法人地域活性化センター)、デートスポットとしてのサービスエリアという新たなイメージの獲得を果たしました。これを皮切りに、テーマや物語性のあるサービスエリアをさらに増やし、ニーズに応じたエリア選択という新たな楽しみをお客さまに提供します。



東名 浜名湖SA(上下線一体)

東海北陸自動車道全通

人を結ぶ、文化を結ぶ、経済を結ぶ。
東海北陸自動車道が地域間を
身近にします。

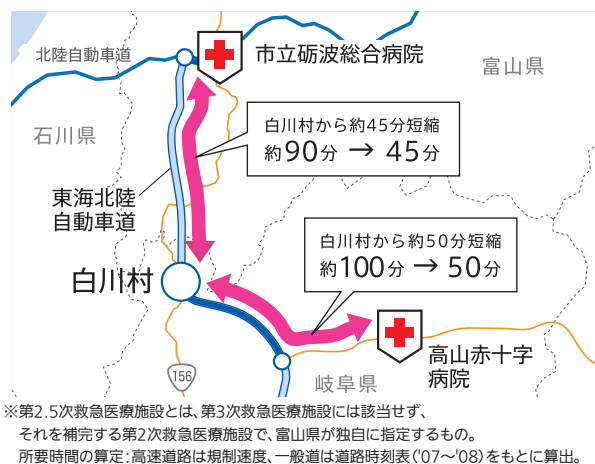
「より安全に」「より快適に」「より便利に」、そして「より早く」NEXCO中日本の大切なこのテーマをもって東海北陸自動車道が開通しました。東海と北陸を結ぶ総延長185kmの高速道路です。確実に身近になった地域間の交流による活性化、経済効果など、様々な社会・地域貢献とともに、お客さま満足追求します。

東海北陸自動車道の整備によるさまざまな効果

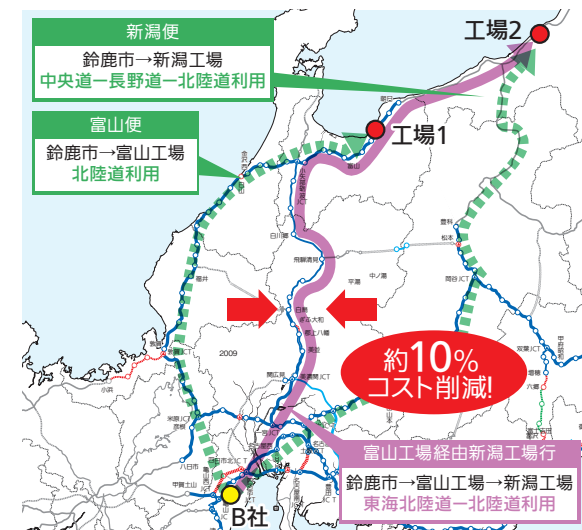
全線開通により東海北陸道の交通量がほとんどの区間で10%以上増加



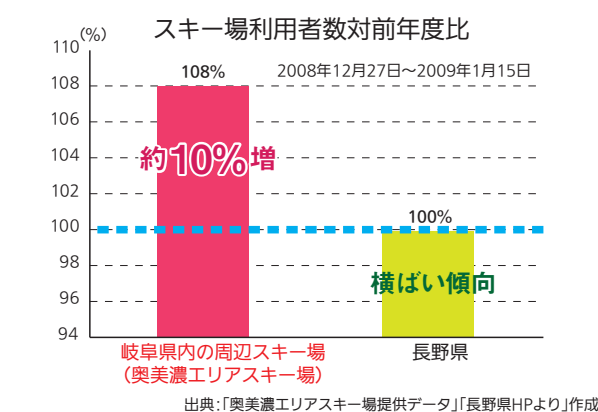
アクセス向上により、高度医療施設も身近になりました



物流コストの削減に寄与（鈴鹿市のB社の事例）



奥美濃エリアのスキー客が約10%増加



新東名リーディングプロジェクト

世界をリードする高速道路システムの構築に向けて

新東名高速道路を、単に現東名高速道路の補完機能に留めることなく、今後の社会、経済の動向を踏まえ、日本の最先端技術を活用した将来の道路交通システムを具現化する場と位置づけています。
その実現に向けて、社内に「新東名リーディングプロジェクト推進委員会」を設置し、組織横断的に総力を挙げて検討しています。
2009年度から、新東名静岡県内の概成区間のフィールドを活用して、各種サービスの実現可能性などについて実証実験（現地実験・デモンストレーションなど）を行います。

基本コンセプト

人、車、道路が協働する「世界をリードする高速道路システム」を構築し、地域の活性化と暮らしの向上、延いては日本全体の発展に貢献することを目指します。

目指すべき方向性（目標設定）

21世紀を迎え、人口減少や少子高齢化の進展、地球環境問題の深刻化、経済のグローバル化、地域間格差の顕在化など、我が国を取り巻く社会経済情勢は大きく変化しています。

今後、持続的な発展を図るには、こうした複雑かつ多様なテーマに的確に対応していく必要があり、以下のテーマに重点的に取り組むこととします。

視点	長期目標 （新東名高速道路の全開通時（2020年）以降）
安心・安全の実現	■交通事故死者限りなくゼロを目指す ■交通事故件数、負傷者半減を目指す 特に、大型車に起因する悲惨な事故撲滅を目指す
環境への配慮	■二酸化炭素排出量半減を目指す
多様なライフスタイルの実現	■サービスエリア等でのユニバーサル対応、環境保全※1、情報アクセス完備※2 ※1 太陽光発電の導入 ※2 無線LANの全施設整備（本線含む）など
活力ある社会の実現	■幹線部の自動車貨物輸送コスト半減を目指す ■安定した速達性、定時性確保を目指す

実証実験計画 2009年～

目的	●技術面の検証 →実用化に向けた基礎的データ収集、ライフサイクルコストなどを考慮した効果検証、利用者評価の実施 ●サービスの内容や効果、技術的成熟度を情報発信し、地域の皆さまやお客さまの理解を得る
実験メニュー	●テレビカメラを活用した警告システム、多機能情報装置、お客さま支援車の開発 など

実証実験のテストコース



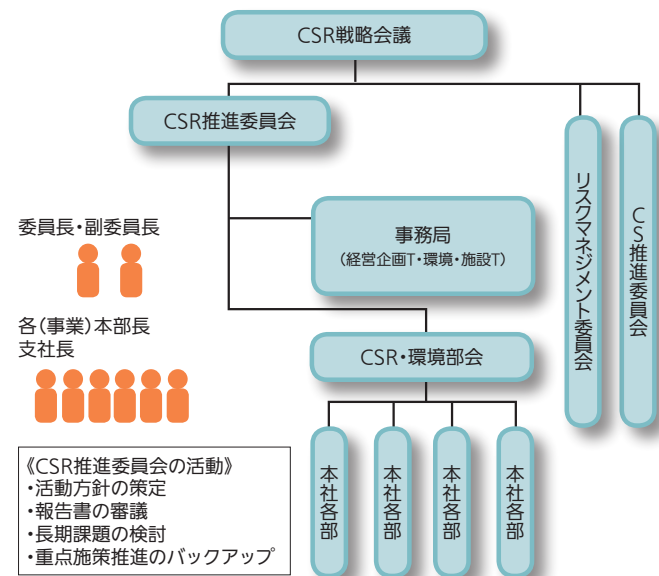
CSRマネジメント

NEXCO中日本グループは、事業を通じてお客さま・国民の皆さま、株主・投資家の皆さま、地域社会、国際社会、取引先、グループ会社も含めた社員など、ステークホルダー（利益共有者）の皆さまの満足度向上に努めCSRを推進します

私たちは高速道路が公共性の高い社会基盤、言い換えれば「社会の公器」とであるという自覚をもち、全てのステークホルダーへ配慮し、経営方針にも定められているとおり、CSR経営をグループ一体となって推進していきます。

CSR推進体制

NEXCO 中日本では、議長が代表取締役会長である「CSR戦略会議」のもと、3つの委員会（CSR推進委員会、リスクマネジメント委員会、CS推進委員会）において、当社のCSR推進を戦略的に展開していく体制を構築しています。このうち、「CSR推進委員会」では各（事業）本部や支社の長が委員となって当社におけるCSRのあり方を多角的に議論、検討しています。



コンプライアンスの推進

コンプライアンスの推進は、NEXCO 中日本グループがめざす企業像である「良い会社で強い会社」の実現に向け必要不可欠なものと認識し、「グループ倫理行動規範」の制定、人事・倫理委員会などの体制を整備するとともに、外部有識者による講演会や社員による意見交換会による啓発活動により、日々の取り組みを行なっています。



コンプライアンス講演会

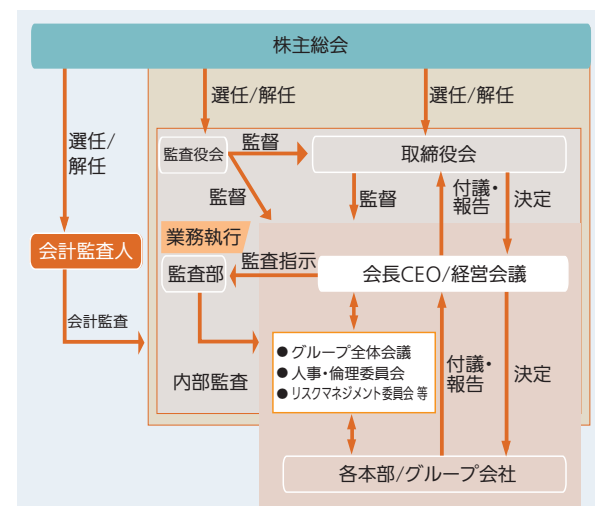
コーポレートガバナンス

ガバナンス体制

NEXCO 中日本は、透明で健全な経営を行い、ステークホルダーの皆さまからの信頼と期待に応えるため、コーポレートガバナンスの充実に努めています。定例の「取締役会」については、月1回開催し、重要事項（グループ会社の経営に関する重要な事項を含む）について決定するとともに、取締役の職務執行状況を監督しています。

また、取締役会の機能強化と経営効率の向上のために、全取締役、専務執行役員などをメンバーとする「経営会議」を月2回開催し、業務執行上の重要事項（グループ会社の経営に関する重要な事項を含む）について審議しています。

この他、2007年6月からはグループ全体に影響する全社執行方針の決定・情報共有などのため、当社役員等に、グループ会社の社長などを加えたグループ全体の会議を定期的に開催しています。なお、監査役はこれら全ての会議に出席しており、社内全般の業務執行を監査しています。



内部統制・リスク管理

2006年5月には会社法及び会社法施行規則の規定に基づき、業務の適正を確保するための体制を構築し、各種内部統制システム（リスクマネジメント等）を整備しています。またBCPの観点から高速道路機能を常に確保するため、新型インフルエンザ対策行動計画等を策定しています。

社会的報告



お客さまとともに

お客様の満足度向上と安全で安心できる高速道路空間の提供を追求
お客さま第一主義のもと、コミュニケーション活動の推進や交通事故対策に取り組みます

グループ全体での「お客さま第一」の徹底

グループ全体で「お客さま第一主義」を徹底し、信頼と好感を得られる企業を目指しています。お客さまに満足して高速道路をご利用いただけるように、CS推進委員会を中心とするCS推進体制を構築し、グループ一体となってお客さまの声を反映したサービスの企画や業務の改善に取り組んでいます。また、お客さまからのお問い合わせ窓口として、「お客さまセンター」を24時間365日開設（フリーコール）して、お客さまからのお問い合わせやご意見・ご要望を絶えず受け付けるとともに、正確で分かりやすいご案内ができるよう、サービスの品質向上に努めています。さらに、テレビCMやお客さま感謝イベントなど広報活動にも力を入れ、企業認知度やお客さま好感度の向上を図っています。



テレビCM



交通事故対策

安全で安心できる高速道路空間をお客さまに提供するため、事故多発箇所における注意喚起、サービスエリアにおける逆走の防止、ETCレーン速度抑制などの対策や、安全走行ガイドや交通安全セミナーの開催など交通安全の啓発活動に取り組んでいます。

事故多発箇所における対策



注意喚起標識



矢羽板

視線誘導標

逆走対策



<逆走防止装置イメージ>

ETC速度抑制対策



安全走行ガイド



冬道走行に気をつけガイド



トンネル走行に気をつけガイド

交通安全セミナー



交通安全セミナーのよう



お客さまとともに

安全で安心できる高速道路空間と快適な道路環境を提供
サービスを向上し快適な走行を実現するために、新たなサービスを含めた多様な施策を実行します

交通渋滞対策

お客さまに常に快適に高速道路をご走行いただくために、渋滞が顕著な区間における付加車線の設置（2008 年度は東名阪（四日市東 IC ～亀山 JCT）、東名高速（海老名 SA 付近）、2009 年度は中央道（元八王子 BS 付近）や暫定 2 車線区間の 4 車線化（東海北陸道）、LED 標識・携帯 Web による情報提供などの対策を行っています。

■ 付加車線の設置により渋滞解消



設置前

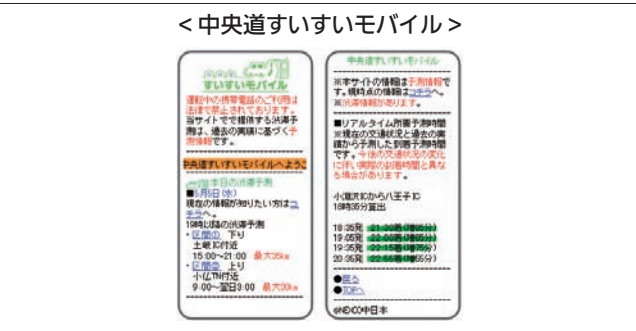
設置後

■ LED 標識による情報提供



LED 情報板の設置

■ 携帯電話を活用した情報提供



Web サイト活用の情報提供

新事業によるサービスの展開

高速道路利用に関わる多種多様なニーズにお応えするため、Web サイトを活用した情報提供の充実や旅行業、カードサービス事業など、新たな事業によるサービスの展開を進めています。



Web サイト『高速日和』URL
(PC・モバイル共通)
HP <http://kousokubiyori.jp/>

↓ QR コード



開通前の飛驒トンネルバスツアー



電子マネー「Edy」一体型のプレミアムドライバーズカード（上）と ETC プレミアムドライバーズカード（下）



地域社会とともに

ネットワークの整備で地域と共生
高速道路の活用で社会・地域・産業・観光に広く貢献していきます

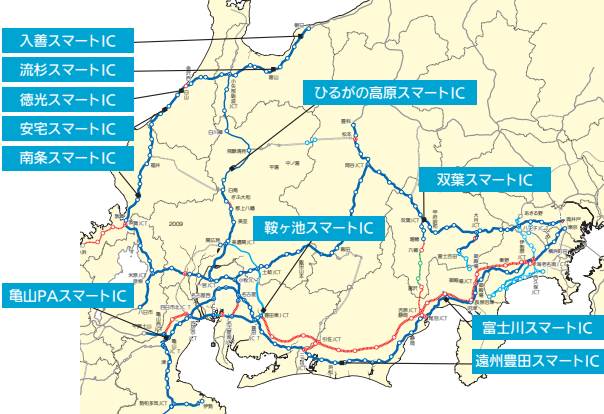
地域活性化への貢献

高速道路ネットワークの整備を通じて、地域産業の発展、広域観光の促進、生活の利便性の向上など、地域の活性化に貢献できるように取り組んでいます。また、既存の高速道路ネットワークの利便性を更に高め、地域との連携を強化し、地域生活や産業の活性化などを目的にスマート IC の整備を進めています。

■ 高速道路ネットワークの整備状況



■ スマート IC 整備地域



東名 富士川スマート IC
※スマート IC とは、ETC 専用の簡易型 IC のことです。

包括的提携協定による地域活性化

関係自治体と包括的提携協定を締結し、高速道路を活用した地域産業・観光の振興、文化の交流などにおける提携や、災害時における協力体制を強化しています。



三重県との協定調印式（右が野呂知事）

包括的提携協定締結

都道府県	締結日
岐阜県	2005 年 10 月 28 日
山梨県	2006 年 4 月 7 日
富山県	2008 年 6 月 6 日
石川県	2008 年 9 月 3 日
三重県	2009 年 1 月 8 日
長野県	2009 年 1 月 27 日
静岡県	2009 年 3 月 23 日
福井県	2009 年 4 月 13 日

※ 2009 年 4 月までに管内 8 県（岐阜県、山梨県、富山県、石川県、三重県、長野県、静岡県、福井県）と協定を締結しました。



地域社会とともに -地域とのふれあい-

地域の接点として沿線住民も利用できる道路に
コミュニティの情報・文化の拠点としてハイウェイのオープンな利用を促進します

地域とのふれあいを推進

高速道路をご利用いただくお客さまだけでなく、沿線住民の皆さまなど多くの方々に、建設中の高速道路の現場をご覧いただいたり、サービスエリアをご利用いただくなどの取り組みを積極的に行い、地域社会とのふれあいを進めています。



さわやかウォーキング 新東名富士川橋（JR 東海と共同）



地域の皆さまによるのり面への植樹 岡崎 IC のり面



地元高校生による橋脚への壁画



サービスエリアを地域の皆さまに開放するぶらっとパーク

社会貢献

常に社会の一員であるということを自覚し、より良い社会づくりに貢献したいという思いを持って、様々な社会貢献活動を展開しています。

福祉への貢献の例

障がい者団体の就労の場を提供することを目的として、横浜市青葉区が支援している障がい者等団体に軽易な維持管理業務を委託しています。



東名 横浜青葉 IC

ペットボトルのキャップをリサイクルして再資源化することにより、ポリオワクチンを購入し、世界の子どもたちにワクチンを届ける運動に参加しています。



国際社会との関わり

本格的なグローバル化への対応
国際社会でも存在感を示すため、積極的な国際貢献や海外事業の展開を進めてまいります

海外への展開を推進

NEXCO 中日本グループ全体がこれまで蓄積した高速道路に関する様々なノウハウ・技術力を、国内だけでなく、海外にも展開していきたいと考えています。ベトナム道路公社やマレーシアの高速道路事業者との覚書の締結など海外道路事業者との情報ネットワークの強化及び積極的な国際貢献を引き続き行うとともに、グループ全体の人材を活用し、アジア地域を中心とした海外有料道路事業へ参画していきます。



ベトナム道路公社への訪問



マレーシア PLUS 社との覚書締結式

ビジット・ジャパンの取り組み

外国からのお客さまも利用しやすい高速道路を目指し、地域の方と共に国内旅行の魅力をお伝えしたいと考え、サービスエリア内の外国語表記・案内標識のピクトグラム化を進めるとともに、外国語版高速道路運転ガイドの作成や外国語メニュー・案内の拡大などに取り組んでいます。



サービスエリア施設内の外国語表記



外国語版高速道路運転ガイド



環境経営の推進

持続可能社会への貢献をめざして、環境経営の推進に取り組んでいます

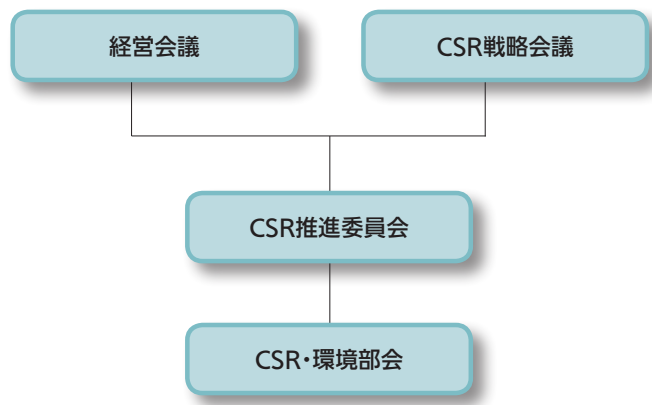
環境方針・環境重点施策

NEXCO 中日本では、環境方針及び環境重点施策を定め、地球環境との共生の実現にむけて、環境に配慮した取り組みを推進して、持続可能社会への貢献を図ります。

CSR・環境部会では、以下の取り組みについて具体的な目標・計画を定めて、NEXCO 中日本グループを横断する体制づくりと計画の推進を図ります。

<CSR・環境部会の取り組み>

- ・COP10開催への協力、関連行事への参加の取り組み
2010 年 10 月開催（開催地：名古屋市）の生物多様性条約
第 10 回締約国会議（CBD COP10）
- ・ISO14001 認証取得への取り組み
- ・沿道・自然環境保全と、環境データの定量的把握の取り組み



事業活動でのCO₂排出量の抑制

NEXCO 中日本では、事業活動での取り組みにより CO₂ 排出量の抑制を行っています。

高速道路を整備したことによる CO₂ の排出抑制量 単位：万 t-CO₂

	一般道路 走行①	高速道路 走行②	CO ₂ の排出抑制量 ①ー②
2008 年度の CO ₂ 排出量	899.6	759.5	140.1
2012 年度の CO ₂ 排出量	974.1	822.6	151.5

ETC による CO₂ の排出抑制量（2008 年度） 単位：万 t-CO₂

	ETC 非利用 の場合①	ETC ご利用 の場合②	CO ₂ の 排出抑制量 ①ー②
ETC の普及・利用促進 （料金所でのノンストップ化） による CO ₂ 排出量	7.56	5.03	2.53

渋滞対策による CO₂ の排出抑制量 単位：万 t-CO₂

	2007 年度 ①	2008 年度 ②	CO ₂ の 排出抑制量 ①ー②
交通集中渋滞による CO ₂ 排出量	6.51	6.31	0.20
工事渋滞による CO ₂ 排出量	1.96	1.85	0.11
事故渋滞による CO ₂ 排出量	2.59	1.96	0.63
CO ₂ 排出量合計	11.06	10.12	0.94

その他の CO₂ 排出抑制の主な事例 単位：t-CO₂

CO ₂ 排出抑制対策	CO ₂ の 排出抑制量
盛土のり面樹林化の実施	13,366.6
維持作業用車両へのバイオ燃料の使用	37.9
高効率照明灯具の採用	60
ヒートポンプ方式の融雪装置の採用	734
トンネル換気運転制御改善	3,220
効率的な土運搬	2,600
自然エネルギーの採用	756

お客さまのご利用によるCO₂排出量(2008年度)

高速道路の
本線を走行したことに・・・759.5万t-CO₂
による排出量

料金所を
ご利用いただいた ……6.3万t-CO₂
ことによる排出量



地球温暖化防止と資源循環の推進

地球温暖化防止と資源循環の推進に取り組んでいます

ETCの普及・利用促進

ETC の普及・利用促進は CO₂ 排出の抑制に効果があります。2008 年度は、ETC のご利用により、年間約 2.5 万 t の CO₂ の排出が抑制されました。



伊勢湾岸道 豊田東 IC の ETC ゲート

高速道路のり面の樹林化

高速道路の走行車両が排出する CO₂ を吸収するため、高速道路のり面の樹林化を進めています。



東名 本宿 BS 周辺
植栽直後（1995 年 3 月）



東名 本宿 BS 周辺
植栽 11 年後（2006 年 4 月）

緑のリサイクル

高速道路から発生する剪定枝や刈草を、堆肥やチップ材として再生利用しています。



草刈り



プラント（堆肥化）



植栽での堆肥利用

廃食用油のリサイクル

サービスエリアの厨房で発生するてんぷら油の廃油を、燃料として再生利用しています。



図 - てんぷら油の廃油のリサイクルイメージ

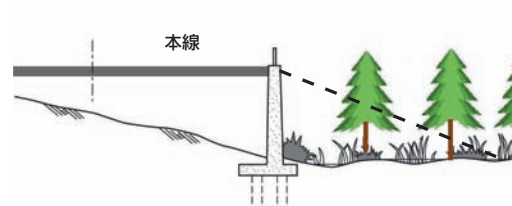


沿道環境への配慮

沿道の生活環境、自然環境の保全に取り組んでいます

自然環境に配慮した道路(エコロード)づくり

道路建設では地域生態系への影響を回避・低減するとともに、新たな生息・生育環境の創出を目的とした「エコロード」（自然環境に配慮した道）づくりを進めています。



道路構造変更による保全状況（破線の盛土から擁壁へ）



現地の保全状況



高速道路下に設けた通路（ボックス）



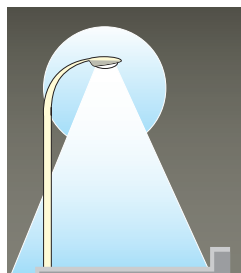
アナグマのボックス利用（2008年10月）

光源対策

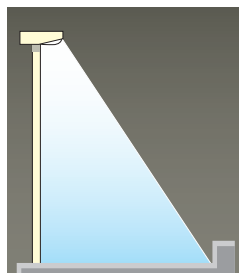
道路照明設備から洩れた光が、隣接する畑の農作物や周辺の動植物に影響を及ぼす場合には、対策を行っています。



旧型の照明設備



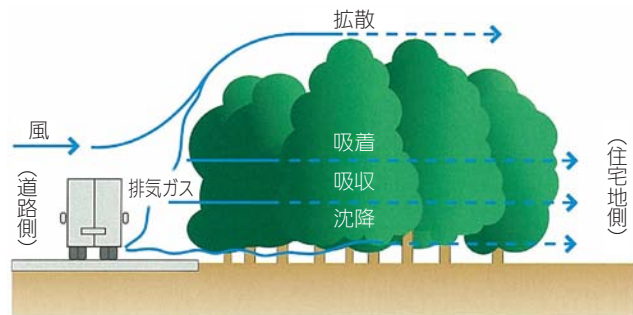
周辺への影響を軽減するための照明設備



圏央道 八王子JCT
低位置照明設備

樹林による大気汚染物質の吸着・吸収

高速道路のり面の樹林化などにより、CO₂だけでなく、NO_xやSPMなどを吸着・吸収することで、高速道路周辺の大気環境の改善に貢献しています。



樹林によって大気がきれいになるしくみ

（イメージ図）



名神 生活環境を保全している樹林

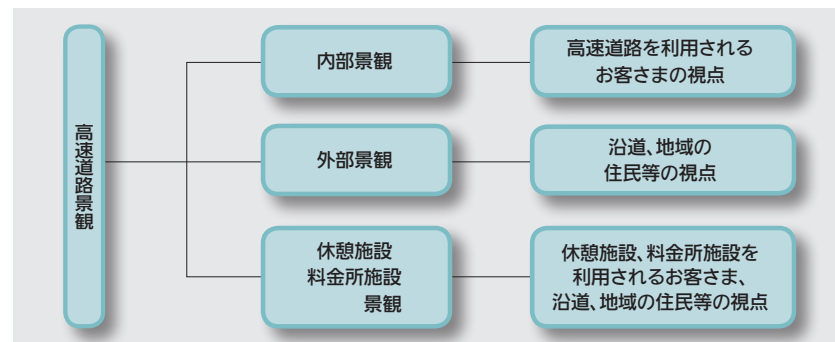


景観向上とお客さま・地域との連携

地域景観の保全に配慮した道路整備や地域の皆さまとの連携に取り組んでいます

道路景観の整備

地域景観への配慮と景観向上をめざして「高速道路景観理念」を制定して、道路景観の整備を進めています。



地域の風景が眺望できる赤淵川橋（新東名）

「環境への誓い」植樹祭の実施

「メッセナゴヤ2008」のNEXCO中日本のイベント「環境への誓い」にご参加いただいた方と、伊勢湾岸道 豊田東ICで植樹祭を行いました。



参加者の笑顔による記念撮影



植樹会場の様子

「ハイウェイ緑の里プロジェクト」の推進

NEXCO中日本が建設・管理する高速道路では、地球環境保全および高速道路沿道環境の改善・維持向上を図るため「ハイウェイ緑の里プロジェクト」を実施しています。



中央道 笛吹市内



新東名 浜松市内

生物多様性条約第10回締約国会議(CBD COP10)への協力

NEXCO中日本の「地域性苗木の育成技術」を活用した事業を通してCOP10関連事業への参画・協力を推進しています。また、その他の活動にも積極的に参加して、生物多様性の継続的な保全に貢献していきます。

第3回CSR懇談会

社外の有識者の方々を委員とした「NEXCO中日本CSR懇談会」を設置し、企業が社会や文化の発展に果たすべき役割や意義、さらには環境に関する事項などについて、大局的な観点から当社経営陣と意見交換をしています。



座長：奥野 信宏
委員：青山 佳世
亀山 章

中京大学 総合政策学部 教授
フリーアナウンサー
NPO法人地域自然情報ネットワーク 理事長
東京農工大学 名誉教授
前 静岡文化芸術大学 学長
洋画家
日本ガイシ株式会社 代表取締役会長
NHK解説委員
建築家(株式会社服部都市建築設計事務所主宰)

※ 敬称略 五十音順